

会議名	令和3年度（2021年度）第1回 産業活力創造会議		
日時	令和4年（2022年）3月23日（水） 10：00～12：00	場所	中央公民館209・210学習室
出席者	委員	小林 伸生（会長）、濱田 恵三（会長代理）、梓 晴輝、荒木 有希、 田中 香織、川村 真純、野末 勝 (以上敬称略) 計7名	
	担当事務局	産業文化部長、商工勤労課長、商工勤労課係長、商工勤労課事務職員2名 計5名	
	関係課 関係機関	宝のまち創造室長 計1名	
会議の公開・非公開	公開	傍聴者	0名
内 容（概要）			
<p>1 開会</p> <p>2 （次第1）辞令交付</p> <p>3 出席委員数報告・会議成立確認</p> <p>4 資料確認</p> <p>5 （次第2）会長・会長代理の選任 (審議会規則第5条により議事進行を会長に交代)</p> <p>6 （次第3）産業振興ビジョン・商工業振興計画の進捗状況について</p> <p>事務局より産業振興ビジョン概要版、ビジョンの進捗状況、商工業振興計画概要版、計画の進捗状況の順に説明、その後、質疑応答や意見交換を行った。以下、その内容である。</p> <p>会長：ビジョン・計画については、宝塚市の現状についての的を射ている事業という印象。実際、市内で居住、事業を行っている委員の皆様の感想や現状認識はどうか。</p> <p>委員：指標中、地域経済循環率について変更を検討するとはどういうことか。</p> <p>事務局：国より、今後の算出については未定であるとの答えを得ているため、生産（付加価値額）/分配（所得）で算出される同指標と、同様の趣旨で、経年で取得できる指標に変更することについて、ご意見や適切な指標があればお聞きしたいとの意味である。</p> <p>委員：起業した事業者数を指標としているが、この中に副業は入っているか。</p> <p>事務局：統計は取っていない。少数ではあるが入っていると推測される。</p> <p>委員：特定創業支援事業において支援を受ける方も同様である。</p> <p>委員：それを踏まえ、目標値50者だが、開業してからが問題だと思っており、西谷地域にはないがコワーキングスペースなど、コミュニティを求めている事業者もいるので、施設の増加を検討してはどうか。</p> <p>委員：情報発信について、市外・県外に向けての発信はどのように実施しているのか。宝塚ブランドは全国ブランドであって、全国へ向け発信する方が、市外の方の起業・創業にも資するのではないか。</p> <p>事務局：資料にシビックプライドという単語を入れており、まずは市内に向け自分の意識を高めて</p>			

もらうことを目的として、市内への発信に力を入れている。市外への発信は実施しているがまだ弱く感じており、一部発信力のある事業者を頼りにしている。今後どのように発信していくか検討する必要があると感じている。

委員：資料の中に補助金についての記載が多いが、具体的な金額を教えていただけたらより理解が深まるので次回以降検討をお願いしたい。

事務局：新規出店を促進するための改装費補助（補助率1/2、上限120万円（一部地域は135万円））家賃補助（補助率1/3、上限月額2万円（一部地域は3万円）を1年間）、既存店舗への改装補助である、来年度リノベーションへの補助（補助率1/2、上限30万円）新ビジネスモデル等創出支援補助金（補助率1/2、上限200万円）、デザイン経営を導入する既存事業者への支援などを行っている。

委員：市の補助やイベントの情報を実施後に知ることも多く、商工会議所にも情報を提供いただければ、事業者へ案内することもできるので、より連携を深めていけたら幸いである。また、起業について、先に意見があったが、起業の件数も大切だが、開業後も継続していけるような事業者を育てていくための支援体制を整えることが必要であると感じている。補助金で成り立つ、のでは厳しい。

事務局：連携については、市も課題であると捉えていて、来年度実施する施策について、商工会議所の職員の皆様に共有をさせていただいたところである。引き続き、連携に努めていきたい。また、指標の起業の件数については、認定支援施設または商工会議所で支援を受け、しっかりとした事業計画を策定され、起業された件数を計上している。起業後についても、同施設や商工会議所で引き続き支援をしてもらっている。継続率の指標化はなかなか後追いができない場合があり、難しいと認識している。

委員：起業後の活動の場、コミュニティが大事だと思っている。地域などのコミュニティで体験を提供することで、色々な地域から多くのお客さんに来ていただき、喜んでいただくことができる。さらに、例えば、西谷と清荒神など違う地域と連携すると、さらなる相乗効果でより面白い事業を創出することができる。昨年は西谷の団体と連携し森の光のサーカスというイベントを実施した。1個人事業者だけを支援するのではなく、コミュニティを作ること、また作られたコミュニティへの支援があればより面白い街になるのではないかと思います。

委員：ビジョンに掲げているイノベーションについて、小規模な個人事業主が新たな技術の発明を目指すのか、それとも違う属性のものの組み合わせで生まれるイノベーションを目指すのか。

事務局：個人が活性化するだけでなく、それぞれの事業者同士がつながりより大きな力になるイメージを持っています。創造都市というのは、産業だけでなく、文化ともかけ合わさることにより大きな力となり、シビックプライドを醸成していく、ということを目指しています。

委員：イノベーションは、閉じた世界、自分たちの分野だけでなく、違うところで住んでいる人とも異文化など、議論することが活性化につながる。

会長：持続的なイノベーション、破壊的イノベーションがあり、前者は既存メンバーが得意で、後者は新参者が起こす。海外の研究ではアーティストが多いところはイノベーションが生まれやすい。異質なものが交わることの重要性は、良く取り上げられている。

ビジョンについて、個人的には、良くまとまっていると思う。似たような他自治体との差別化のためにも、宝塚市がどこに力を入れているかを見えるように、表現できれば良いと思う。起業に力を入れているのであれば、それを見えるように提示することで、宝塚での起業しようという方も生まれてくると思う。

委員：指標だが、製造品等出荷額という指標にできないか。

会長：事業所が撤退すると、1事業所当たりの出荷額が伸びる、という形になるので事業所数と出荷額を併記するか、付加価値率を上げていくという考え方もできる。高付加価値化を目指す

ので、付加価値率を目標値とする選択肢もある。住工混在地域では製造業の伸びが頭打ちになる傾向がみられる。そのような状況下において、高付加価値化に目標を設定することはいい考えだと思う。

事務局：事業所数と出荷額を併記する案も検討したいと思う。

委員：ビジョンにある宝塚ファンは歌劇ではなく、まちのファンだと思う。住民が求めている宝塚像と、市外の方が求めている宝塚像には違いがある。歌劇がある一方で、自然も多く、華やかさと素朴さが融合しており面白い。しかし、宝塚に何が求められ、ブランドをどう出すかと考えたときに、いろいろあり面白いと思うが、逆に絞り込めない。田舎は差別化が難しく三田、篠山等があり難しい。類似商品が多く並ぶ、華やかさの部分も出していけば、差別化が可能となる。現在は、皆が抱く宝塚像に落とし込めていないのがもどかしく感じる。無難にではなく、見ていて面白い、ワクワクするような、みんなが宝塚というものを表現できれば他の地域に負けないものが出来上がってくるのではないかと思う。

会長：確かに宝塚には晴れやかなイメージがある。それも浸透させるために、一つ一つの取組を若干でも意識すれば変わっていくかもしれない。

委員：このビジョン・計画は、いつ策定に向けた議論をされたのか。新型コロナウイルス感染症は影響があったのか。

事務局：コロナが拡大する前の令和元年度に着手し、拡大後になるが令和2年度末に策定された。

委員：旅行会社を運営しているが、コロナの影響が大きかった。カネを回すことが大切で、ビジョン・計画の記載内奥は理解できる。計画を進めていく一方で、お客様が外へ出ていきやすいような雰囲気づくりも必要であると感じる。

委員：策定中にコロナ禍に入り、それに関する議論もかなり実施しており、ビジョン・計画にもウィズコロナ時代の視点を多く盛り込んでいる。

事務局：これからの時代をどう進んでいくかは委員の皆様の知見も参考にしながら、我々の施策に活かしていきたい。様々の業界の方に参集いただき活発な議論ができたことに感謝する。

3 閉会